

University
Current
Review

ISSN 0288-1748 2021(令和3)年 9月20日発行 [隔月刊]

[記念特集] 大学の未来へ—継承と発展—

大学時報

NO.400
2021. **09**



日本私立大学連盟

だいがくのたから
Thesaurus Universitatis

豊田工業大学



豊田佐吉翁像(右)と
豊田喜一郎記念ホール(左)



Innovators Plaza t-COMPASS



創造性開発工房 Eiji工房



豊田式木製人力織機

研究と創造の精神

豊田工業大学は、日本を代表する発明家、豊田佐吉翁の遺訓「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」を建学の理念とし、今年開学40周年を迎えた。佐吉翁の長男で、トヨタ自動車の創業者である豊田喜一郎氏は、日本独自の産業技術の確立を図るには、技術者の育成が極めて重要と考え、「社業繁栄の暁には大学を設立する」という夢を抱いた。後に学校法人トヨタ学園初代理事長となる、第5代社長の豊田英二氏らは、その夢の実現を決意し、「研究と創造の精神」の継承による社会貢献を目的として、1981年に本学は開学した。

学内には、先人たちの情熱や創造の精神を感じられるスペースが各所に設けられている。「Innovators Plaza t-COMPASS」は、彼らが残した言葉やゆかりの品々を通して、先人たちのモノづくりに対する失敗と挑戦の歴史を紹介。学生の未来を指し示す羅針盤（COMPASS）となるよう期待が込められている。

学部1年次から、モノづくりにおける代表的な加工法を、理論と実践を結びつけて学ぶ「創造性開発工房」。学内に実習工場を設け、「現地現物」で行う体験的教育の重要性を説いた豊田英二氏の精神を引き継ぎ、工房の愛称を「T3工房」とした。

昨年、完成した新キャンパスには、建学の精神と本学誕生の経緯を心に留めるよう命名された「豊田喜一郎記念ホール」が設けられ、そのロビーには、佐吉翁が1890年に23歳で発明し、翌年特許を取得した「豊田式木製人力織機」を展示。トヨタ自動車により忠実に複製された本機を通じ、佐吉翁の不断の努力や創意工夫の精神を肌で感じる事ができるよう、授業でも使用されている。

モノづくりの発展に貢献してきた先人たちの強い志と情熱は脈々と受け継がれ、豊かな人間性と創造的な知性を備えた開発型技術者・研究者をいまなお輩出している。

表紙：カエデ（モミジ）

カエデ科カエデ属の総称。古名を「かへるで」と言い、カエルの手に由来します。モミジは紅葉するという意味の動詞「もみず」が転じた別称です。江戸時代には多くの品種が作られ、江戸随一の園芸家・伊藤伊兵衛が著した植物図譜ではさまざまなカエデが和歌を添えて紹介されています。

124	122	120	114	112	104	102	100	98	94	90	84
編集後記			新学長紹介			クローズアップ・インタビュー			明日への試み		
私大連ニュース			新会員代表者紹介			めざせ 集まれ 未来の科学者!!			武蔵野大学アントレプレナーシップ学部		
執筆者・出席者のご紹介(掲載順)			文教大学／中央大学／福岡女学院大学／慶應義塾大学／駒澤大学			高校生向け探究型プログラム「BEGIN Jr.」			「社会を創る」学部を通じて日本を再び元気にする		
私大連ニュース			学習院女子大学／実践女子大学／関東学院大学／桃山学院教育大学／			大学博物館の学びを家庭でも			伊藤羊一		
私大連ニュース			大阪医科薬科大学／流通経済大学／東京医療保健大学／東京農業大学／			山梨英和大学／四日市看護医療大学			桑原千明		
私大連ニュース			山梨英和大学			赤羽有紀子さんに聞く (聞き手)川島葵			田中優子		
私大連ニュース			山梨英和大学			自由研究編2			私の授業実践〜教育現場の最前線から〜		
私大連ニュース			山梨英和大学			寺井俊裕			コロナ禍における授業実践の振り返り		
私大連ニュース			山梨英和大学			山尾彩香			桑原千明		
私大連ニュース			山梨英和大学			山尾彩香			明日への試み		
私大連ニュース			山梨英和大学			山尾彩香			武蔵野大学アントレプレナーシップ学部		
私大連ニュース			山梨英和大学			山尾彩香			「社会を創る」学部を通じて日本を再び元気にする		
私大連ニュース			山梨英和大学			山尾彩香			伊藤羊一		



Be Real 寄りそう知性

「Real」とは、二つの「実」。仏教でいう「真実」。人間の思慮分別や価値判断が加わる前の世界、真理の姿を指し示します。もう一つは目の前の「現実」。社会問題や一人ひとりが経験する苦悩や、世の中に現れる具体的事象。

「Be Real」とは、真実を立脚地として、世の中の現実を生きていこうというメッセージ。世の中の現実に向きあいながら真理を探究していこうという姿勢。真実と現実とにしっかり足場をおいて、本来あるべき人間の姿、あるべき社会を探究し、創造していこうというメッセージが「Be Real」。

仏教の理念に基づく本学において、どの学部・学科で学ぶことになろうとも、学ぶことで得られる知性は「他者に寄りそう」ことになるはず。仏教の智慧は、必ず人間に慈悲を生み出す力となる。それが「寄りそう知性」。



文学部

社会学部

教育学部

国際学部

NEW 2022年4月名称変更 大学院 人文学研究科



大谷大学



〒603-8143 京都市北区小山上総町 入学センター 075-411-8114

NEW

2022年4月
開設

社会学部 コミュニティデザイン学科

情報メディアコース



問い、続ける。

<https://brand.otani.ac.jp/>



文学部

真宗学科 仏教学科
哲学科 歴史学科 文学科

人間を知り、自分らしく生きる力へ。

真宗学科の 学び



何を大切にして生きるべきか、 人間の課題を学ぶ

「真宗」とは仏教の宗派ではなく、「真」は真実、「宗」はよりどころ、大切にすべきことを意味しています。つまり、真宗学科がめざすのは、何を大切にして生きるべきかを、仏教の思想のもとに探究することです。自分自身を問いながら、人間の課題について学ぶことで、自己と他者を尊重する生き方を身につけることができます。

仏教学科の 学び



仏教を学ぶと 人生に迷ったときに役に立つ！

仏教では「一切皆苦」(世の中の全てのものは苦しみであり、思い通りにならない)、「諸行無常」(世の中の全てのものは移ろいゆく)という考え方をします。人生で何らかの出来事に遭遇したとき、これらの釈尊の教えを知っている人と知らない人とは、感じ方が大きく違ってきます。特に辛いとき、苦しいときは仏教が救いになることもあるのです。

哲学科の 学び



現代の諸問題を解決する 論理的思考力が身につく

たとえば、「安楽死を認めるべきか」の問いに対し、「みんなはどう考えるのか?」「なぜそういえるのか、その根拠は?」などをとことん突き詰めるのが哲学です。他者と議論を交わす中で、多角的かつ柔軟に物事を見るクセがつかれます。論じたい問いに対し、筋道を立てて解を導く。こうした哲学的アプローチの鍛錬が、仕事に必須となる論理的思考力も磨いてくれます。

歴史学科の 学び



史料読解力を身につけて、 興味あるテーマをクローズアップ

大学で学ぶ歴史学のポイントは、「史料を読んでそこから何を読み取るか」。暗記が中心だった高校までとは大きく異なり、自発的に取り組み、掘り下げていく力が求められます。歴史学科ではまず、日本史なら古文書、中国史なら古典籍といった古い時代の文献を読む力を身につけることから始め、そこから「考察する力」を徐々に養っていくことができます。

文学科の 学び



多くの文学作品を通じて、 人生を学び、考え、豊かにする

各研究分野の専門家である指導教員のもとで、学生一人ひとりが主体的に設定したテーマを探究するために、どのような情報収集(文献、フィールドワーク、統計資料など)が可能かを、より掘り下げて検討し実行していきます。また、第3学年ではプレゼンテーションの機会が増えるため、公の場で説得力をもって自分の意見を伝える技能を身につけることができます。

社会学部

現代社会学科(現代社会学コース)
コミュニティデザイン学科
(NEW 情報メディアコース※・
地域政策学コース・社会福祉学コース)

社会と、地域と、つながる人へ。

※2022年4月開設

現代社会学科の学び



身近なトピックを学問的に 考察するおもしろさがある

現代社会ならではの事象や現代人が直面する悩みを、社会的に探究していきます。学生もまた現代社会に生きる現代人。日頃から自分が悩んでいること、疑問に思っていることなど身近な興味・関心事を題材として、深掘りしていけるおもしろさがあります。身近な営みの中にある新しい発見・驚きは、勉強する楽しさに気づかせてくれます。



広範な分野に通用する 知識や経験を身につけられる

社会学を学ぶと、課題や仮説を設定し、調査で検証する力、解決策を導く力が磨かれます。これは、どんな種類の仕事でも役立つスキルです。また、社会の事象にアンテナを張る習慣がつくため、先行き不透明な現代社会で、何が必要とされているかを的確に選び取る嗅覚も身につきます。こうしたジェネラルスキルの修得は、就職先の選択肢も広げてくれるはずですよ。

コミュニティデザイン学科の学び



情報をキーとした コミュニティデザインを学べる

WEBサイトや動画、SNSなどを使い、いかに地域の魅力を発信するかが地方創生の鍵です。コミュニティデザイン学科では、制作会社のプロから現場で通用するスキルを学べるほか、動画編集ソフトの実技演習も充実。デジタルコンテンツの編集スキルやメディアリテラシーも修得可能です。地域FM放送やフリーペーパーを通して大学周辺地域の情報発信を経験することもできます。



「プロジェクト研究入門」で ディレクション力を磨ける

大学近隣の住民の方や経営者など人生の大先輩にインタビューをし、その半生をまとめる「プロジェクト研究入門」。地域への理解を深めることに加え、構成を組み立てて必要なことを聞き取る力、得た情報をどう整理するかといったディレクション能力を磨けます。また、チームでの共同作業を通して、互いの意見を尊重し、妥協点を探りあうバランス力も身につきます。

NEW 2022年4月
開設

社会学部 コミュニティデザイン学科 > 情報メディアコース

教育学部

教育学科

(初等教育コース・幼児教育コース)

「子どもが好き」のその先へ。

教育学科の学び 初等教育コース



小学校教諭に必要な 高い「授業力」が身につく

教員免許状の取得に向けたカリキュラムはもちろん、第2学年から始まる模擬授業が大きな特徴です。教師役と児童役に分かれ、45分の授業を行う中で、学習指導案やワークシートの作成、教材開発や板書テクニックなど、実践的なノウハウが身につきます。また、京都市内の小学校で授業補助を経験する演習もあり、児童や保護者とのかかわり方を間近で学ぶことができます。



学校運営・学級経営能力が 修得できる

地域の子どもたちと交流する「おたにキッズキャンパス」では、学生が主体となって、ロケット作りなどの体験イベントを実施。企画から資材調達、予算管理、当日の進行や安全管理などを全て担い、地域との連携や事務局とのやり取りなど組織的な運営にかかわります。イベントの運営を通して、学校運営・学級経営に必要なマネジメント力を磨くことができます。

教育学科の学び 幼児教育コース



実践で身につく 総合プロデュース力

幼児教育コースでは、第1学年から保育所(園)や幼稚園に出向き、保育を体験します。また、ダンスや劇を披露するオペレッタ発表や、子ども向けの体験企画・交流イベントの開催を通して、企画・運営から装飾などの造形、音楽作り、パフォーマンスなど、総合プロデュース力を養います。地域と連携して行っている子育て支援活動を通して、地域とのかかわりや現場に潜む課題を知ることもめざしています。



人気の認定資格 「保育心理士(二種)」が取得できる

より高度で、専門的なスキルが必要とされる保育の現場。従来の保育技術のみならず、発達に独自性をもつ子どもや、悩みを抱える保護者へどうサポートしていくのかなど、こころのケアまでをカバーできる知識とスキルが求められています。そうした現代のニーズに応える認定資格が「保育心理士(二種)」。現場のケーススタディを題材に、実務レベルの対応力を修得できます。

国際学部

国際文化学科(英語コミュニケーションコース・
欧米文化コース・アジア文化コース)

身近な他者に気づき、世界と共生する人へ。



航空・旅行業界の 現場から、キャリアの可能性を広げる

「グローバル・キャリア論」では、航空・旅行業界のスペシャリスト(JAL・JTB)の講義を通して、ホスピタリティ、マーケティング、ダイバーシティという観点から「世界の今」を学びます。現場の経験で得られた「グローバル」な知識を生かして身近な他者との共生について考えることは、「ローカル」に生きる方法の探究と、キャリアの具体的なイメージ形成にもつながります。



多彩なバリエーションから選べる、 実践型プログラム

「実践文化演習」は、座学だけでなく、キャンパスの外に出て学びを深める必修科目です。半年から1年間海外で語学を鍛える長期留学や、1ヶ月弱の短期型の語学・文化研修、夏休み中の語学集中講座など、多彩なプログラムから選ぶことができます。京都のまちに出て英語で観光案内を行うワークショップでは、語学力だけでなく国際感覚を磨き、日本の魅力を再発見することができます。

国際文化学科の学び



概論で各地域への理解を深め、 学びたい分野を見つける

国際文化学科では、第2学年より欧米系、アジア系などの専門コースに分かれて学びを深めます。そのため第1学年では、「国際文化概論」や「国際言語概論」を通して、各国の多彩な文化や言語の成り立ちと広がりを知る機会を用意。1年かけて、興味のある分野を見極めることができます。他国の文化の奥深さにふれ、幅広い観点から物事を考察する力も養います。



多言語社会を生き抜く 汎用コミュニケーション力を養うことができる

在日外国人の増加やインバウンドへの対応など、日本の国際化が進む今、多言語化への対応スキルは必須です。国際文化学科では英語に加えて、関心のある外国語を4ヶ国語から選択し、修得できるカリキュラムを設置。複数の言語をマスターすることで、どんな国の方とも臆することなく対話できる力が身につきます。海外で働くといった将来の選択肢も広がるでしょう。

University Current Review

大学時報

2021.09 / NO.400



地図と羅針盤

木越 康 大谷大学学長

コロナ禍によって、大学業界もそれぞれに厳しい運営が迫られたが、大谷大学は、学生数、立地、カリキュラムの内容や受講者数から、幸いほとんどの科目を学内対面で実施することができた。刻々と変わる状況の中で各大学はそれぞれに苦労を重ねて困難を乗り越えてきたが、大学運営が決して一律ではないという当たり前のことが明らかになったように思われる。

個々がそれぞれに適切な世界観を持って、自身の位置と役割とを見定めて最善策を導き出す。嵐の中、地図と羅針盤を手に、常に修正を受け入れる柔軟な態度で自らの進むべき方向性を見定めていく。そんな人物育成の視点が、これからの大学には必須であろう。

臨床で学ぶ、臨床を学ぶ 医療系大学・大学院の人材育成

堀内 成子 聖路加国際大学学長

1. COVID-19 治療拠点を学校法人内にもつ環境

本学は、1学部(看護学部・定員460名)、2研究科(看護学研究科160名、公衆衛生学研究科56名)を有し、附属施設として特定機能病院である聖路加国際病院(520床)・附属クリニック・訪問看護ステーション・助産院を擁するユニークな組織である。2020年1月22日に国内2例目となる新型コロナウイルス感染症患者の病院受け入れ以降、今日に至るまで、本学では各教職員が持ち場で最善の方法を見出し、治療活動や社会支援を続けている。

病院では、院長主導のコロナ対応会議を毎日開催し、受入患者数、病床数、治療・検査法、法人内の感染予防策、保健所や東京都との連携調整、地域住民対象のワクチン接種協力等が協議され、その内容は全管理職にイントラネッ

ト経由で情報共有されている。

大学教員は学内外で様々な支援に関与してきた。看護学研究科の教員・大学院生は、聖路加国際病院での臨床支援(ICU、急性期病棟)、都内保健所への保健師派遣、看護職メンタルヘルス電話相談(日本看護協会)、訪問介護者向け感染対策動画作成(厚生労働省)、地域介護施設の感染防止コンサルテーション、ワクチン接種協力など、専門職者として支援に力を注いだ。公衆衛生学研究科の教員は、LINEでの感染状況大規模調査企画・分析や、エビデンスに基づくマスキングの発信等の社会貢献活動に従事してきた。

2. 臨床で学ぶ、臨床を学ぶ ― 本質は変化するのか

本学の前身となる聖路加国際病院附属高等看護婦学

校を1920年に創設した米国宣教医ルドルフ・B・トイ
スラー博士は、日本の看護水準向上を目指し、高等女学
校卒業を入学要件とした。1964年に4年制大学へ移
行、私学初の大学院看護学研究科修士課程開設、日本初
の博士課程創設の道を切り拓き、今日に至る。2014年



聖路加国際病院をはじめとする多様な施設を擁するキャンパス

に病院を附属施設とす
る学校法人に改組し、
2017年度に英語を
教授言語とする大学
院公衆衛生学研究科
を開設するなど、高度
専門職人材育成への道
を開いてきた。

看護学部の教育は臨
床重視の文化に根差し
ており、オープンキャン
パスでは本学の特徴を
臨床で学ぶ、臨床を学
ぶと説明してきた。し
かしながら、2020年

度はCOVID-19による感染拡大防止の観点から、病棟実
習の多くについて、学内演習やシミュレーション学習、Web
カンファレンス授業の手法へ変更を余儀なくされた。臨床
で学ぶの部分が著しく制限された。

学内実習では、シミュレーション状況下の模擬患者と看
護師の動画、電子カルテと同様の情報を用いた教材、患
者視点から見える治療やケア環境（ICU、病室、授乳室
等）動画の制作を通じ、実習目標を達成する学びの工夫
に取り組んだ。臨床現場の看護師や管理者の働きを伝え
る動画や、病棟実習を経験した上級生が学生目線で作成
した動画（1日の看護学生の動き）を用いるなど、臨床で
の学びにチャレンジする日々であった。Webでの学びは、
患者の多様性、臨床現場の緊迫感、変化のスピード、スタッ
フとの一体感が乏しく、限界がある。他方、病棟実習に比
べ落ち着いて考えることができ、これまで病室内で見えな
かった学生の言動が可視化され、教員や同級生から丁寧
なフィードバックを得やすい利点もあった。「今しかできな
いオンライン実習」でわかった学生のコミュニケーションの
特徴や、限られた情報から想像力を働かせてアセスメント
する力など、学生の可能性も見えた。何よりも、困難に直

面しても、最終目的を見失わずできることを求め、最善を尽くす教員の試みと創造性に感動した。

大学院生の学業・研究では、海外のフィールドで研究や実践活動を行っていた学生が帰国を余儀なくされ、研究計画の変更を迫られた。医療の臨床現場における治療やケアの改善を目的とした研究では、医療現場の感染拡大防止の理由により、現場立ち入りの許可が下りず、データ収集の目処が立たなくなった者もいた。社会人学生は勤務先の医療現場で多忙を極め休学せざるを得ず、休学者は例年の2倍強となった。

3. 自由度の広がる遠隔教育

クラウド型の教育支援サービス LMS (Learning Management System) を用い、オンライン授業が一気に標準授業形態となった。Webライブ講義では、チャット機能の活用やWeb上でのグループワークなど、刺激的な学修経験の場となった。対面授業で「質問はありますか?」と聞いても挙手は少数であるが、チャット機能で「この考え方に関する感想を3分で記入してください」と投げかけると、アクティブに賛否両論が展開される。物理的

に分離されていても、参加体験を共有する中で、学生個々の考えが画面上にリアルタイムで表示され、教員にとっても新鮮な経験となった。

夏のオープンキャンパスはオンラインで開催した。2019年度と比べ参加数は半減したが、地方からの参加者が増えるメリットがあった。卒業生を対象とした「ホームカミングデー」も、Web開催の結果、国内外にいる同窓生が交流する嬉しい結果をもたらした。ライブ交流会は約200名、講演会視聴は1千440名に達し、2019年度の対面交流会参加者51名と比較して、遠方から参加できるWeb開催のメリットが活かされた結果となった。



“臨床で学ぶ、臨床を学ぶ”看護学生たちの姿

4. 不確実な時代が求めるもの

2021年度入試、首都圏はコロナを警戒する地域と認識され、保健医療専門職の持つ厳しさも相まって志願者が減るのではと思われたが、激減することはなく、ほっと胸を撫で下ろした。学士編入生の入試では、逆に志願者が増えた。本学は、我が国で唯一、看護学部以外の大学卒業者の学士3年次編入制度「2年でナース!」の課程があり、30人定員に対し約4倍の志願者があった。特に女性の雇用の不安定さを背景として、国家資格で雇用が安定している医療職へのセカンド・キャリアを目指す者が目立った。

学生の就職活動では、相次ぐインターシップの中止やWebでの面接実施等、様々な環境変化が見られた。戸惑う学生に対し、学生部やアドバイザー教員が細やかに応じていた。看護師国家試験対策では特別ワーキングを立ち上げ、模試結果のWeb解説講座やニュースレター配信等の対策を講じ、学生を応援し続けた。この状況乗り越えた教員は支援の手ごたえを覚えたものと思う。「コロナ時代の看護師」と呼ばれる卒業生には、この困難を乗り越えた自信を持ち活躍することを願う。

おわりに

本稿では、治療の最前線に立つ病院を擁する聖路加国際大学の奮闘の日々を記した。誰もが忘れられないコロナ禍の年度となった2020年は、本学の看護教育100周年を祝う年でもあり、困難に直面した時の教職員の柔軟な対応力、協力を惜しまない精神に支えられた日々だった。臨床で学ぶ、臨床を学ぶという意味をもう一度考える好機であった。

米国ペンシルベニア大学のダックワース博士は、『GRIT—The Power of Passion and Perseverance—』の著書で、GRIT、すなわち「やり抜く力」は、「情熱」と「粘り強さ」の2つの要素からなると述べている。難しい問題にぶつかった時、問題が解けないのは、自分の能力が足りないかと解釈するのではなく、どう改善したらいいかを問い続けることだと指摘している。Withコロナ時代にあっても、人材育成の場に求められることは、GRITⅡややり抜く力を応援し、伸ばしていける学び舎として在り続けることだと実感している。